

令和2年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(推薦入試Ⅱ)

小論文

(医学部 保健学科)

(注意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は3ページ、解答用紙は2枚である。指示があってから確認すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 下書きをする場合は、問題冊子の余白を利用してよろしい。
5. 問題冊子は持ち帰ること。
6. 解答用紙は持ち帰ってはならない。
7. 解答用紙の上の欄に受験番号を記入すること。

令和2年度鳥取大学医学部保健学科入学者選抜試験

(推薦入試Ⅱ)

問題 次の課題文を読んで、後の問いに答えなさい。

人間がロボットと生き物の中間にあるような存在であり、社会のなかの樹形図構造とスケールフリー構造を（それぞれ図1、図2を見てください）はつきり意識して行動すべきだとしたら、大学は社会のなかでどのような役割を果たせばよいのでしょうか？

(中略)

学問体系は樹形図構造になっています。「自然科学」「人文科学」「社会科学」といった大きな枠組みの下に理学、医学、工学、哲学、法学、経済学といった学問領域があり、それがさらに多様な専門分野に枝分かれするのです。大学の学部や学科も、基本的にはその体系をなぞった構造になっているでしょう。

しかし大学の教育内容には、その体系には当てはまらないものもあります。少なくとも一九九〇年代までは、ほとんどの大学に「教養課程」がありました。すべての学部の学生が入学後二年間は同じ教養部に所属し、そこで基礎教育を受けていたのです。ちなみに私が「アホなことせい」と言われたのも、この教養部時代でした。また、いまの私が所属する総合人間学部／大学院人間・環境学研究科は、この教養部が母体になっています。

(中略)

大学設置基準など、建て前の上では「豊かかんようで柔軟な人間性の涵養と、広く深い見識を身につけることで、専門課程で学ぶための基本的素養・能力を養うことを目的とする」ということになっていました。しかし正直なところ、教養部の教員（私もその一員でした）でさえ、教養の意味を十分な説得力をもって説明することができなかったのです。

「そりゃあ、教養はないと困るやろ」

「せやなあ、あったほうがええわ」

そんなふうにボンヤリと教養の重要性は認識しているので、はっきりと「教養なんかいらん」と言う人はあまりいません。しかし「それは本当に必要なか？ 無駄じゃないのか？」と批判的に問われると、何と答えていいかわからない。たしかに教養はすぐには役に立ちませんし、学ぶ目的も判然としないか

らです。そもそも明確な目的があつたら、それは実質的に「専門」になってしまふかもしれません。目的がないからこそその「教養」なのです。

教養がとらえどころのない印象を与えるのは、専門的な学問と違って決まった「体系」がないからでしょう。誰もが「教養のある人」と認める人間はたくさんいますが、それぞれの教養の中身はてんでんばらばらで、ほとんど共通点はありません。万人向けのワンセットを揃えて、「はい、これが教養でございます」と出すことができないのが、教養というものです。

しかしその中身を共有してはいなくても、「教養人」と呼べる人たちには何らかの共通項がありますし、「教養のない人」との差も明らかでしょう。その差は、知識量そのものの差ではありません。豊富な専門知識を持っていても、「教養のない人」はいくらでもいます。

では一体、その違いは何なのか。たとえば、ひとつの見方だけに固執せず、まったく異なる角度から物事を見ることができる。あるいは、想定外の質問にアドリブで柔軟に対応できる。そんな人と会うと「教養があるなあ」と思ったりします。だとしたら、なぜそんな能力が必要なのでしょう？

昔から「無用の用」というように、一見無駄に思えることがじつは重要ということはいくらかありません。また、合理的に判断したつもりなのに結果が悪くなることはいくらでもあります。ところが、とくに深く考えていなかったのに「犬も歩けば棒に当たる」みたいな結果オーライになることもある。それは多くの人が経験的に知っているでしょう。つまり、理性的に考えればすべてうまくいくわけではないのです。

ここで「理性的に考える」とは、決定論的な思考を意味します。ところがカオスな世界では、因果律を積み上げた体系的知識（樹形図構造の知識）はどこかで破綻してしまう。そのときに必要になるのが、いわゆる教養なのではないでしょうか？だとすれば、教養とは樹形図構造の「外側」にある知識だとみなすこともできるでしょう。これは、因果律に基づいた樹形図構造的世界観では表現不能です。だから、「教養とは何か」を論理的に説明するのは難しいのだと思います。

前章で述べたように、カオスな自然界には自然発生的な秩序があることが見えてきました。そこには、図1のような樹形図構造とは違うスケールフリー構造があります。それは図2のように雑然とした構造をしています。ならば、教養と専門知識の違いも基本的な構造の違いで理解できるのではないのでしょうか。体系的な学問が樹形図構造の知識であるのに対して、体系のない教養はスケールフリー構造の知識だといえるのかもしれませんが。

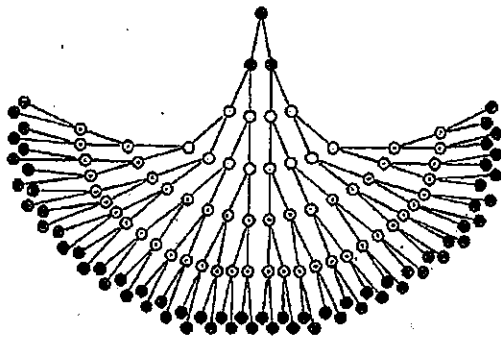


図1 樹形図構造

この部分につきましては、著作権の関係上、HPでは公表しておりません。

図2 約10万個のインターネットルーターの接続図
出典：Barabasi, The physics of the Web, Physics World, 2001

出典：酒井敏 『京大的アホがなぜ必要か カオスな世界の生存戦略』 (集英社 2019年) より抜粋、一部改変。

問1 筆者が考える「教養とは何か」について、200字以内で述べなさい。

問2 課題文の内容を踏まえて、「教養」を身につけるために、大学入学後、どのような学びが必要と考えますか。あなたの意見を600字以内で述べなさい。